



脊椎神経センター

Outpatient service

関西医科大学総合医療センター
術中モバイルCT下手術の最前線

Innovative Surgery

脊椎神経センター | センター長

小谷 善久

Yoshihisa Kotani

当センターでは、貫して脊椎手術の低侵襲化に力を入れています。今回は昨年導入した術中モバイルCT「O-arm2」を活用した、世界最新鋭の高精度で低侵襲な脊椎外科手術をご紹介します。

従来の脊椎外科手術といえは、体を大きく開き、レントゲン写真の「影」を見ながら、施術は医師の経験に基づく勘に頼る部分が多くありました。O-arm2は、ナビゲーション機器を併用することで術中のリアルタイム3次元イメージングを可能にした術中モバイルCTシステムです。放射線被ばく量は低く、従来のCTの約4分の1です。スキャンニングから転送まで約2分で、3次元的高精度なリアルタイム画像を映し出し、皮膚表面から見えない脊椎へのス

手術の安全性・精度・低侵襲性を大幅に向上させる「O-arm2」で患者さんに大きな安心を



profile

- 1989年3月 北海道大学医学部 卒業
- 1992年10月 米国Johns Hopkins大学Union Memorial病院 客員 研究員 (2年間)
- 1995年3月 医学博士 (北海道大学)
- 2006年8月 北海道大学病院整形外科 講師
- 2010年6月 北海道大学病院整形外科 准教授
- 2012年4月 製鉄記念室蘭病院 副院長、整形外科長
- 2019年4月 関西医科大学総合医療センター 脊椎神経センター長
- 2019年11月 米国低侵襲脊椎外科学会 (SMISS)、Asia-Pacific Section 代表



放射線被ばく低減・術中プランニングを実現する、最新鋭のAI搭載脊椎CT下手術を使用した手術。(2020年1月、オーストラリアにて小谷医師参加)

リーズが高まるでしょう。当センターは先端設備と高い技術を持つ医師によって、患者さんにとって安全・メリットの大きな低侵襲手術を実施しております。これからも最先端システムにアナチを張り、信頼のおける手術を提供してまいりますので、治療の難しい患者さんがいらっしゃればぜひご紹介ください。

総合集中治療部

Interview

関西医科大学総合医療センター
新部長に聞く

New Professor

総合集中治療部 | 部長

吉矢 和久

Kazuhisa Yoshiya



北河内の救急事案を支える“頼られるセンター”であるべく、柔軟で強固な受け入れ体制を



profile

- 1997年3月 大阪大学医学部医学科 卒業
- 1997年6月 大阪大学医学部附属病院 特殊救急部 医員 (研修医)
- 1998年6月 国立東静岡病院レジデント(外科研修)
- 2004年3月 大阪大学大学院医学系研究科博士課程 修了
- 2004年4月 大阪大学医学部附属病院 特殊救急部
- 2007年9月 阪和記念病院 脳神経外科 医長
- 2007年12月 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 医師
- 2008年8月 大阪大学医学部附属病院 救急医学科 助教
- 2010年4月 米国ハーバード大学スイスラエル・ティコーネ・メテカルセンター 研究員
- 2019年8月 関西医科大学総合医療センター 救急医学科 病院教授
- 2019年9月 関西医科大学総合医療センター 総合集中治療部 部長

当ICU(総合集中治療部)は、術後の患者さん、院内で状態が悪くなった患者さんの集中治療を担当しています。加えて救命救急センターに搬送されてくる患者さんの受け皿にもなっており、内因性疾患、外傷など多岐にわたる患者さんに対応しています。また、当院の大きな特徴として精神疾患身体合併症センターがあり、精神科医師・精神保健福祉士との協力体制が確立しています。精神疾患を合併する救急患者さんの積極的な受け入れは大阪府下で唯一、日本でも数少ない体制であり、非常に重要な医療機関であると感じています。

また地域の医療を支える医師の方々との交流が非常に重要だと考



みです。就任直後より強く感じているのは、地域の医師・医療機関の方々と救急隊が当院を選んでくださった場合に、患者さんの重症度に関わらず常に対応できる体制を整えておかなければならないという使命です。より多くの医師が万全の状態で救急患者さんを受け入れられるように、今年度より部内では救急車到着前に医療スタッフのマンパワを確保する「二音呼び出しコール」などのシステムもスタートさせ体制強化を図っています。今後も患者さんを第一に、医療スタッフの増強、チーム医療の強化に努めていく所存です。



特定
看護師

Interview

関西医科大学香里病院
看護部

Specialist

看護部 | 看護副部長
辻 佐世里

Sayori Tsuji

高度な専門知識と
幅の広いケアで
患者さんへ迅速な対応を

特定看護師とは
正式名称を「特定行為研修修了者」と言い、ある分野における特定行為（診療補助）の研修を受けた看護師を指します。本来は医師のみが可能な行為を、医師が作成した手順書を基に自身の判断で行うことができます。私は集中ケアにまつわる分野で、人工呼吸器に関連する非侵襲的な行為や栄養・水分管理にかかわる薬剤の投与などが可能です。特定看護師の資格と特定行為研修修了者という二重の専門知識・技術を駆使し、より高度なアセスメントで患者さんをケアしています。

地域連携への展望
看護師は「患者さんの治療と生活を繋ぐケア」を得意とします。これまで私は、院内で訪問看護ス



profile

集中ケア認定看護師、特定行為研修 修了
【特定行為区分】
栄養および水分管理にかかわる薬剤投与関連
呼吸器（気道確保にかかわるもの）関連
呼吸器（人工呼吸療法にかかわるもの）関連
呼吸器（長期呼吸療法にかかわるもの）関連
栄養にかかわるカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連
動脈血液ガス分析関連

テーションのスタッフを対象に急変対応の研修会を実施してきました。また2019年度からは地域医療との連携を目指して発足した当院内科 延山医師の「KORIプログラム」(13ページでご紹介)にも参加しています。地域医療を支えるスタッフの皆様、もし私たちの専門知識がお役に立つことがあればご連絡ください。ぜひ勉強会などの機会を設け、地域医療へ貢献していきたいと思っております。

内科

Interview

関西医科大学香里病院
新病院教授に聞く

New Professor

内科(呼吸器) | 病院教授
延山 誠一

Seiichi Nobuyama

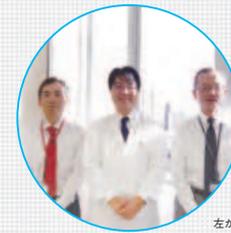


地域医療との連携を重視した
特色ある専門治療で
安心の医療体制を
展開していく

現在、COPD(慢性閉塞性肺疾患)は糖尿病や高血圧と並ぶ三大内科疾患の一つです。しかし呼吸器の専門医から治療を受けている患者さんは全体の約16%。北河内の人口から単純計算すると、約7千人の患者さんが専門医にかつていないこととなります。地域に根ざす医療機関としての現状を打破すべく、着任初年度となる2019年度は、COPDに関するトータルケアプログラムを構築しました。「KORIプログラム」と名付けたこの診療体制は、専門医や看護師、ソーシャルワーカーなど当院スタッフのみならず、地域の先生方と一緒に患者さんを、総がかりで治します。4月から1年計画で地域医療連携部のスタッフと寝屋

川市内の全開業医(内科・耳鼻科)の先生方を訪問し、患者さんのご紹介数は着実に増加してきました。当プログラムの症例から「ご紹介しますと、肺がん手術後に運動能力が著しく低下し、ご本人の意欲減退も見られた高齢の患者さんがいらしていました。ご家族も含め退院後の生活環境までフォローする方針をご提案したところ、生活への意欲を取り戻し、入院10日目には運動能力が大きく向上。退院後はご本人の希望だったひとり暮らしを再開され、地域医療に戻っていただくことができました。」

2020年度には、同様の活動を気管支喘息について展開したいと考えています。これらの取り組みを通



開業医訪問メンバー
左から：齋藤、延山、高木



じて地域の先生方との信頼と連携を強化し、今後も北河内の医療発展に貢献していく所存です。

profile

- 1993年3月 兵庫医科大学 卒業
- 1993年6月 兵庫医科大学病院 勤務
- 1995年7月 西宮市立中央病院 勤務
- 1997年7月 国立徳島近畿中央病院 勤務
- 2001年1月 宝塚市立病院 勤務
- 2002年8月 大阪警察病院 勤務
- 2004年6月 兵庫医科大学 呼吸器内科 助教
- 2006年11月 井上クリニック 内科部長
- 2007年1月 聖マリアン医科大学 呼吸器内科 講師
- 2015年4月 国際医療福祉大学熱海病院 呼吸器内科 病院教授
- 2019年4月 関西医科大学香里病院 内科 准教授
- 2019年12月 関西医科大学香里病院 病院教授



左から：福島 八枝子 医師、竹内 翔 医師

リハビリ
テーション科

New initiatives

関西医科大学くずは病院
リハビリテーション科

Rehabilitation

新たな2つの展開をご紹介します

スポーツリハビリテーション外来の開設

リハビリテーション医学講座

福島 八枝子

Yaeko Fukushima

整形外科での
経験を活かし、

アスリートの未来を
スポーツ医学で支える

日本におけるスポーツ医学の普及に尽力したいと考えており、2019年4月に着任してすぐスポーツリハビリテーション外来を開設しました。当外来は学生、プロアマチアを問わず、体に問題を抱えるスポーツ選手が対象です。体を開くことなく治療する、リハビリを成功させることを目的としています。得意とするのは超音波ガイド（エコー）を用いた筋膜リリース注射や関節内注射。整形外科医として10年以上のキャリアがあるからこそ、エコーで見る画像を頭の中で立体的・鮮明に読み取り、的確な処置を提供できると自負しています。運営チームのスタッフには、アスリートの競技復帰へのサポートに意欲を燃やすベシャリストが結集しました。選手一人ひとりとじっくり向き合い、信頼関係を築きつつ診療を行っています。

profile

- 2004年3月 兵庫医科大学 卒業
- 2006年4月 大阪府立中河内救命救急センター 医師
- 2007年4月 星ヶ丘厚生年金病院 医員
- 2010年4月 聖隷浜松病院 医員
- 2011年4月 清恵会病院 医師
- 2012年7月 関西医科大学附属病院 循環器腎内分代謝内科 医師
- 2019年4月 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 助教 兼 関西医科大学くずは病院 リハビリテーション科 医師

デイケア・在宅介護サポート体制の拡充

リハビリテーション科

竹内 翔

Sho Takeuchi

確固たる体制づくりで
さらに行き届いた
在宅介護のサポートを

当院では地域の先生方から多くのご紹介をいただき、患者さんのケアに務めてまいりました。昨今、特に高齢の患者さんは治療後に自宅へ戻る際、日常の生活動作に支障をきたす障害を抱えている方が少なくありません。そこで当科では現在、通所リハビリテーション（デイケア）の充実に力を入れています。強みはリハビリマネジメント会議を設けており、デイケアご利用者とご家族、当院のリハビリスタッフ、医師の強固な連携によって、個々のケースにより密着した具体的なマネジメントを提案できる点です。また2020年2月より、当院のケアプランセンター（ヘルパーズステーション）が訪問看護ステーションと同じ建屋に移動しました。在宅介護を支える部門間の連携をこれまで以上に増強した体制で、地域の皆様へのお役立ちもますます充実させていくことができると確信しております。

profile

- 2014年3月 慶応義塾大学医学部 卒業
- 2016年4月 慶応義塾大学病院 助教
- 2017年4月 村山医療センター 医師
- 2019年4月 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 病院助教 兼 関西医科大学くずは病院 リハビリテーション科 医師

栄養
管理部

Interview

関西医科大学香里病院
栄養管理部

Specialist

係長・管理栄養士 | 細見 恭子
管理栄養士 | 日下部 絢美
管理栄養士 | 吉田 文子

管理栄養士とは

ひとりで言うと、栄養に関する専門知識・技能のスペシャリストです。診療科や病棟と密に連携し、患者さんの療養・健康増進に向けた食の指導や管理を担っています。代表的な仕事は通院入院患者さんへの栄養指導と、入院患者さんへ提供する給食の栄養管理計画。患者さんと接する機会は医師より少ないですが、身近な「食」の話題を共有する立場として、心に寄り添ったアプローチが求められます。

通院入院患者さんへの栄養指導

食事改善に積極的に取り組んでいただくために、患者さんの食習慣だけでなく、食への思いをすくい上げ、じっくり対話することをモットーとしています。食事は毎日のことであり、各人の嗜好が異なるから

地域の患者さん
一人ひとりを丁寧に
毎日の食から支える



こそ急な改革は難しい部分があります。書き込み式の冊子を手作りしたり医療用語を平易な言葉に置き換えたり、食事改善がその方の生活にとけ込むよう常に工夫が欠かせません。

入院患者さんの給食の栄養管理

4病棟199床を有する当院では、院内の厨房で調理した食事を提供しています。各病棟では医師・看護師・薬剤師・管理栄養士など多職種で構成する栄養サポートチームを設けていますので、特に栄養状態の悪い患者さんや手術後に食欲不振のある患者さんについては、詳細に食事提案を行います。

管理栄養士としてのやりがい

患者さんに食事改善の必要性や意義をご理解いただけた時に喜び

を感じます。栄養指導を行った方が「検査結果が良くなった」とわざわざ訪ねてくださることもあり、とてもうれしいですね。地域に根ざした病院として、今後も来院される方々に食の面からお役立ちできるように、スタッフ一丸となって務めていきたいと考えています。



リハビリテーション学部 (認可申請中) 誕生。

関西医大では、新たに「リハビリテーション学部(仮称)」を2021年4月の設置を構想しています。

当学部は理学療法学科、作業療法学科の2学科制を予定しており、医学部・看護学部及び附属医療機関を持つ、医科系複合大学の特色を活かした医療人の育成を目指します。学舎は牧野キャンパス旧本館跡地に建築する他、教育・研究が十分に行えるよう整備計画を進め、理学療法士、作業療法士に必要な知識及び技術を修得できる環境を整える予定です。

牧野キャンパスに
設置構想中



リハビリテーション学部 学びの特色

現代のリハビリテーション医療で求められる高度な知識と専門技術を身に着けた人材の育成を目指します。

1. 先進医療と先端テクノロジー教育の学び
2. 医学部・看護学部との合同講義によるチーム医療の学び
3. 関連医療機関での臨床実習を通して、救急医療から在宅医療までさまざまな医療現場での実践的な学び

Interview

おかげさまで開院50周年
いざ、つぎの50年へ

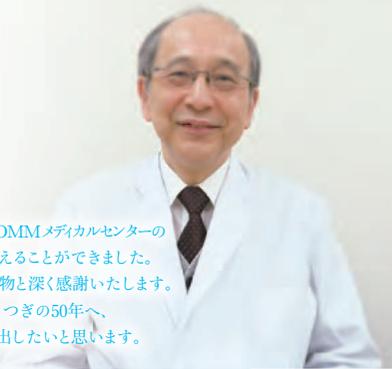
天満橋総合クリニック | 院長

浦上 昌也

Masaya Urakami

令和元年の11月1日。

天満橋総合クリニックはIHOMMメディカルセンターの開院より無事に50周年を迎えることができました。これも皆様方のご支援の賜物と深く感謝いたします。これまでの50年を振り返り、つぎの50年へ、変わることを恐れずに踏み出したいと思います。



OMMメディカルセンターの歩み

大阪万博の開催を翌年に控えた1969年8月25日に、天満橋に日本初の大規模複合センター、大阪マーチンダイズスマート(OMMビル)が開館しました。OMMビルは、竣工時には西日本でもっとも高いビルとして話題になるほど、当時の大阪では類を見ない大きなスケールをもったビルでした。そのビルの角に、関西医科大学の全額出資により、医療法人OMMメディカルセンターが開院しました。

まず内科、眼科、耳鼻科、放射線科の外来診療を開始しました。少し遅れて、皮膚科と婦人科が加わりました。専門医集団による良質な都市型の総合診療体制が出来上がりました。一方で、予防医療の重要性に早くから着目して、日帰りの人間ドックや健診を開始しました。入院施設を持たないクリニックが人間ドックや各種健診を外来部門から完全に分離して行つ、先進的な診療体制ができました。現在全国各地で見られる総合健診センターの原型とも言えます。

専門医集団による都市型の総合外来と総合健診センターを主とした予防医療部門を2本の柱として診療を行い、多くの実績を残してきました。大学では独立し、運営してきたこともあり、経営が困難な状況にも直面しましたが、全職員が忍耐と努力により克服し、経営状態も順調に回復しました。しかし、慢性的な医師不足、大学が経営する医療法人という不明確な立場に起因する法令コンプライアンス上の問題など、解決しなければならない問題点もいくつか浮上してきました。これらの問題点を解

決し、関西医科大学およびOMMメディカルセンター双方にとって発展的な将来展望を開くために、2012年4月1日に財団医療法人OMMメディカルセンターは学校法人関西医科大学と経営統合し、名称を関西医科大学天満橋総合クリニックと改めました。

天満橋総合クリニックのこれまでの歩みとこれから

天満橋総合クリニックとして再スタートして以来、施設や運営システムの整備は着実に進み、大学の附属病院との医療連携も飛躍的に深化しました。小さなクリニックでありながらも、高度で良質な医療が可能となりました。

予防医療の大切さが世の中で広く認識されるようになるにつれ、クリニックの診療の重点も大きく予防医療部門に移ってきました。クリニックの予防医療部門の目標は、単なる健診機関に終わることなく、疾病のリスク評価、早期発見から病気の予防のための治療、さらに健康増進プログラムも取り込んだ予防医療センターとなることだと考えてきました。今後変わることはありません。

クリニックでは、人間ドック健診だけではなく、企業で働く人達の健康管理を行う産業医活動にも力を入れてきました。そのため、メンタルヘルスを新設し、保健指導部を充実させました。予防医療に求められているものも、時代とともに大きく変わってきています。

超高齢化社会の到来により、高齢者の健康寿命のさらなる延伸のため、フレイルやサルベニア、軽度認知障害(MCI)の評価を行い、そ

の結果を踏まえた治療や生活指導を他の医療機関や健康増進のための施設と連携して行う仕組みが必要です。

AI技術の飛躍的進歩、プレジジョンメディスンやリキッドバイオプシーなどの革新的技術が医療の現場を大きく変えようとしています。人間ドック健診を、受診者個々の希望に沿って、年齢性別、既往歴、家族歴、職業などを考慮して個別化(パーソライズ)されたものに変えてゆくに必要があります。私たちは、勇気をもって新しい技術を取り入れ、人間ドック健診の在り方を変革してゆかねばならないと考えています。待たずして。

旧OMMメディカルセンター時代の2005年4月より、臨床研修医、地域保健、医療研修の受け入れを開始し、現在に至るまで続いています。延べ300名以上の研修医を受け入れてきました。学生の学外臨床実習の受け入れも行いました。来年度からは看護学部の臨床実習も始まります。

教育は大学附属のクリニックの重要な責務と考え、臨床研修に積極的に取り組んでゆきます。

profile

- 1983年3月 関西医科大学 卒業
- 1990年3月 関西医科大学大学院 単位修得(第2内科学)
- 1996年4月 関西医科大学第2内科学講座勤務を経て、医療法人OMMメディカルセンター 入職
- 2005年4月 財団医療法人OMMメディカルセンター 所長(常務理事)
- 2006年4月 関西医科大学 臨床 教授
- 2012年4月 関西医科大学 天満橋総合クリニック 院長
学校法人関西医科大学 評議員